

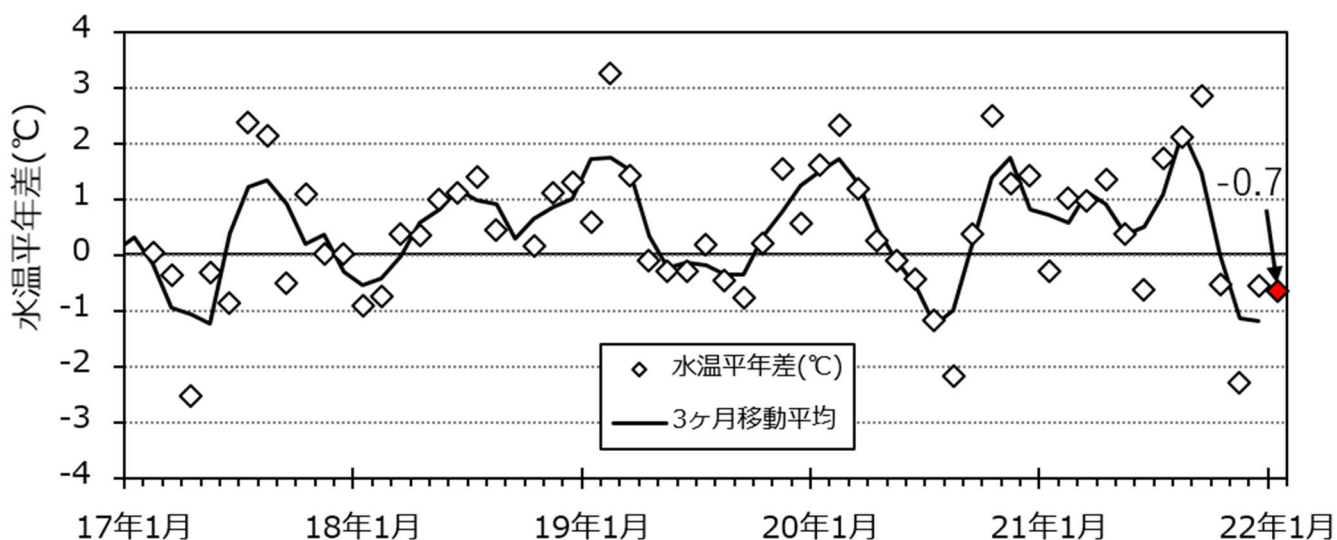
【水温の変動】

1月19、20日に、調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。

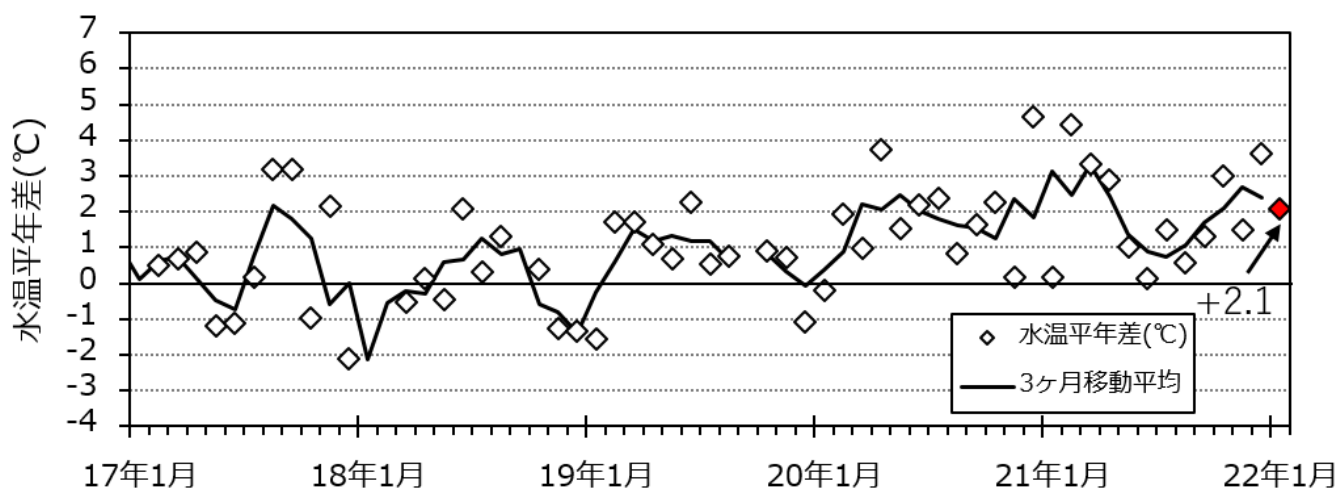
湾口部では平年差 -0.7°C でやや低めとなっています。沖合域は平年差 $+2.1^{\circ}\text{C}$ で高めでした。

1月20日の人工衛星画像によると、黒潮は室戸岬沖から、潮岬沖の北緯29度付近まで南下した後、S字状に北上して熊野灘に接近し、その後三宅島付近を通過して房総半島沖へ流れています。流路は、流軸が御前崎沖の北緯33度以北を通過するAs型となっています。また、黒潮が熊野灘から遠州灘に接近しているため、高温傾向が継続しています。また、伊勢湾の湾口付近に顕著な潮境が形成されています。

湾口部表層（A1）における水温平年差の変動



沖合域水深200m（A4, A12, A19の平均）における水温平年差の変動



※水温平年差は過去10年平均値との差

【渥美外海の海況】

渥美外海の水温は、表層で 10.6~19.6°C、水深 100m で 13.5~20.2°C、水深 200m で 10.7~16.1°C となっていました。水温の鉛直断面図をみると、各水深で等温線の傾きが非常に大きく、黒潮流軸の指標水温が水深 200m で 15.5°C であることから、沖合に黒潮による東向き強い流れがあることが分かります。また、湾口部で熱塩フロントが、沖合域では陸棚フロントが形成されています。クロロフィル a 濃度は、湾口部で高く、渥美外海では低くなっています。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

